

(電子メール施行)
農技第1676号
平成29年3月15日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

平成28年度病虫害発生予報第8号を発表します。

平成28年度病虫害発生予報 第8号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
春キャベツ	黒腐病	やや少	少
	菌核病	やや多	平年並
	アブラムシ類	平年並	少
	モンシロチョウ	平年並	少
タマネギ	べと病	多	やや多
	白色疫病	やや少	少
	細菌性病害	やや多	平年並
	ネギアザミウマ	平年並	やや少
春レタス	菌核病	やや多	平年並
	灰色かび病	平年並	やや少
イチゴ	アブラムシ類	平年並	やや少
	ハダニ類	やや多	やや多

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(3月11日から4月10日までの天候見通し)

平成29年3月9日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

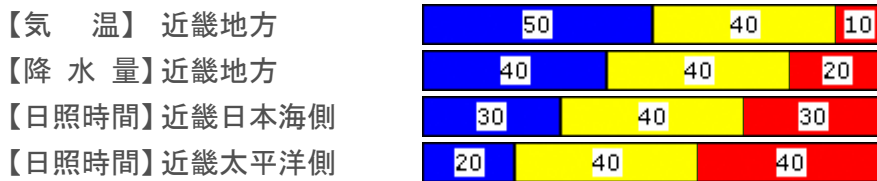
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、低い確率50%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

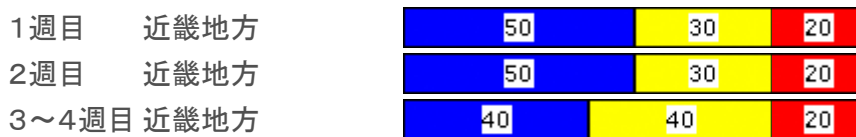
週別の気温は、1週目は、低い確率50%です。2週目は、低い確率50%です。3～4週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

- 1か月 : 3月11日(土)～ 4月10日(月)
- 1週目 : 3月11日(土)～ 3月17日(金)
- 2週目 : 3月18日(土)～ 3月24日(金)
- 3～4週目 : 3月25日(土)～ 4月 7日(金)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

春キャベツ

1 【黒腐病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠
3月上旬の現地調査では、発生は認められなかったが、今後春期の気温上昇と降雨に伴い、やや少ない発生で推移すると考えられる。

2 【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠
3月上旬の現地調査では、発生ほ場率40.0%、発生株率は2.8%と平年並の発生であった。今後春期の気温上昇と降雨に伴い、やや多い発生で推移すると考えられる。
(3) 防除上の留意点
薬剤散布を行う場合は、兵庫県農薬情報システム等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)。

3 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠
3月上旬の現地調査ではまだ発生は認められていないが、今後春期の気温の上昇に伴い平年並の発生で推移すると考えられる。

4 【モンシロチョウ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠
3月上旬の現地調査ではまだ発生は認められていないが、今後春期の気温の上昇に伴い平年並の発生で推移すると考えられる。

タマネギ

1 【べと病】

- (1) 予報の内容 発生量：多
(2) 予報の根拠
3月上旬の淡路地域での現地調査で極早生・早生品種では発生ほ場率は6.8%、発病株率は0.08%、中生・晩生品種ではそれぞれ、1.9%、0.005%とやや多い発生であった。向こう1ヶ月の気象条件は降水量が平年並～少なく、気温は平年並～低く推移すると予想されている。しかし、昨年多発し、ほ場全体の菌密度が高くなっていることから、今後春期の気温上昇及び降雨に伴い多発生で推移すると考えられる。
(3) 防除上の留意点
栽培暦やタマネギべと病対策マニュアル（技術者版）を活用し、罹病株の抜き取りと薬剤防除を徹底すること。

詳細は平成29年3月15日付平成28年度病虫害発生予察注意報第2号

(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>) を参照のこと

2 【白色疫病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
3月上旬の淡路地域での現地調査では発生は認められなかったが、今後春期の気温上昇と降雨に伴い、やや少ない発生で推移すると考えられる。

3 【細菌性病害】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
3月上旬の現地調査では早生品種で発生ほ場率14.2%、中生・晩生では1.7%と、平年並の発生であったが、今後、春期の気温上昇及び降雨に伴い、やや多い発生で推移すると考えられる。
- (3) 防除上の留意点
薬剤散布を行う場合は、兵庫県農薬情報システム等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)。
収穫時には発病球を確実に除去し、貯蔵中の感染を防止することが必要である。

4 【ネギアザミウマ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
2月中旬のほ場調査では少数の発生がみられた程度であったが、今後春期の気温の上昇に伴い平年並の発生で推移すると考えられる。

春レタス

1 【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
3月上旬の現地調査では発生ほ場率10.0%と平年並の発生であったが、今後春期の気温上昇と降雨に伴い、やや多い発生で推移すると考えられる。
- (3) 防除上の留意点
薬剤散布を行う場合は、兵庫県農薬情報システム等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)。

2 【灰色かび病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
3月上旬の現地調査では発生は認められなかったが、所内予察ほ場では発生があり、やや少ない発生であった。今後春期の気温上昇及び降雨に伴い、平年並の発生で推移すると考えられる。

イチゴ

1 【アブラムシ類】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

3月上旬の現地調査では少数の発生がみられた程度であったが、今後春期の気温の上昇に伴い平年並の発生で推移すると考えられる。

2 【ハダニ類】

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

3月上旬の現地調査では発生株率が約80%であった。今後春期の気温の上昇に伴い密度が増加すると考えられる

(3) 防除上の留意点

薬剤散布を行う場合は、兵庫県農薬情報システム等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)